



平成 29 年 4 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社富士通ビー・エス・シー  
代 表 者 名 代表取締役社長 小 島 基  
(コード 4793 J A S D A Q)  
問 合 せ 先 執行役員 広報 IR 室長 仲 田 孝 司  
(電 話 03 - 3570 - 3481)

当社の親会社名 富士通株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 田 中 達 也  
(コード番号 6702 東証、名証各第 1 部)

### 連結業績予想と実績値の差異および 個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 10 月 25 日に公表した平成 29 年 3 月期連結業績予想と本日公表の実績において差異が生じたのでお知らせいたします。また、個別業績における前年実績値との差異についても併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 連結業績予想と実績値の差異について

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 33,000	百万円 1,000	百万円 1,000	百万円 700	円 銭 59 32
今回実績値 (B)	32,072	1,414	1,372	1,402	118 84
増減額 (B - A)	△927	414	372	702	
増減率 (%)	△2.8	41.4	37.2	100.3	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	31,850	106	113	△2,248	△190 55

#### (差異の理由)

当社は、当連結会計年度において、アシュアランス機能の強化による不採算プロジェクトの抑制、および社員の意識改革等による会社の体質改善、また、将来に向けた経営基盤の強化に全力を注いだ結果、全社的に利益率の改善が進みました。また、翌期以降の不採算リスクに対する引当てについても 23 百万円にとどめることができました。その結果、営業利益は 1,414 百万円、経常利益は 1,372 百万円を計上でき、業績予想を大きく上回ることとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、繰延税金資産の見直しを行ったことから、経常利益の好転による影響とあわせて予想から大きく上回る結果となりました。

## 2. 通期個別業績の前期実績値との差異について

平成 29 年 3 月期通期個別業績と前期実績値との差異（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績（A） （平成 28 年 3 月期）	百万円 31,423	百万円 184	百万円 194	百万円 △2,215	円 銭 △187.75
当期実績（B） （平成 29 年 3 月期）	31,801	1,443	1,368	1,401	118.76
増減額（B－A）	377	1,258	1,174	3,616	
増減率（%）	1.2	680.8	605.1	－	

### （差異の理由）

当会計年度の売上高については社会基盤・ネットワークシステム、産業・流通システム、金融・公共システム等のシステムインテグレーションが前期実績を下回るものの、エンベデッドシステムの大幅な伸長やソリューション・サービスの売上好調がカバーし、売上高は 31,801 百万円（前期比 1.2%増）となりました。利益面では、不採算プロジェクトの抑制および経営基盤の強化により、利益率が向上した結果、営業利益は 1,443 百万円（前期は営業利益 184 百万円）、経常利益は 1,368 百万円（前期は経常利益 194 百万円）と大きく改善いたしました。当期純利益は 1,401 百万円（前期は繰延税金資産の取り崩しにより 2,215 百万円の損失）となりました。

なお、本日、平成 29 年 3 月期決算短信（連結）を公表しておりますので併せてご参照ください。

以上